



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

鳳鳴橋の欄干は「さまのこ」をイメージしていますが、そこに鋳物レリーフの植物がはめ込まれています。それはアオギリと言って、鳳凰が宿るとされているそうです（左上の写真）。

中居鋳物保存会の11名が来訪

7月13日、能登穴水の中居鋳物保存会のメンバー11名が金屋町を訪問しました。鋳物資料館、まちづくり協議会、まちなみを考える藤グループからそれぞれスタッフが出て対応し、大変暑い日でしたが1時間ほどかけて金屋の町並みを案内し、次に鋳物資料館を見てもらった後に大寺幸八郎商店へ移動して交流会をしました。



緑地公園で説明を聞く中居鋳物保存会の一行
中居は平安時代から江戸時代末期にかけて鋳物産業が栄えた地域であり、高岡鋳物と同じく河内丹南がルーツです。大正時代を最後に鋳物産業の火は消えてしまっていますが、立派な鋳物資料館があり「たたら唄」などと共に鋳物の歴史保存をしています。

古町の山本貞明さんが優勝

西条校下住民ゴルフ大会、

7月17日に第14回の主題のゴルフ大会が花尾CCで開催され、83名が参加しました。金屋町からは高岡信金の3名を含めて9名が参加し

ましたが、金屋古町の山本貞明さんがグロス87、ネット71.4で見事に優勝を射止めました。金屋町チームの他の選手達も健闘したのですが、大変シビアなハンデキャップがついたために、グロスで



は好成績なのにネットでは残念な結果となり、団体戦は7位に終わりました。

優勝トロフィーを手にする

山本貞明さん

第31回金屋町鳳鳴グリーン会

7月3日に第31回金屋町鳳鳴グリーン会を開催しました。上位入賞は、優勝：藤田益一、2位：新保公章、3位：般若慎一郎、でした。

金屋町の歴史

鋳物のうた展

今年68歳になる横田小学校卒業生達が、60年



前の小学3年生だった時に書いた作文集を、当時担任教師だった佐野善

雄さんが保管していました。金屋町の歴史について学んだこと・調べたこと、金屋町の喜多さんの

鋳物工場を見学した時の事などが訥々と書かれています。もちろん当時の金屋町の子供達も含まれています。

金屋町が開町400年を迎える記念の年に同級生が金屋町に集い、作文を書いた頃の気持ちを思い起こそうという同窓会の企画があることを聞き、せっかくの機会だから鋳物資料館で展示するようにお願いしました。7月30日の同窓会の日から約1ヶ月間、文集を拡大コピーのパネルにして展示しますので、どうぞご覧ください。第3展示室入場は無料です。

期間：2011年7月30日（土）

～8月27日（土）

9：00～16：30 火曜日休館

場所：高岡市鋳物資料館 第3展示室

（高岡市金屋町1番5号

電話28-6088）

主催：高岡市鋳物資料館

共催：高岡市立横田小学校昭和27年度3年

～佐野善雄学級同窓会

金屋町納涼祭

8月20日（土）、昨年と同じく宮川町（八番街）で実施予定です。合流した金屋本町も含めてオール金屋町で開町400年をおおいに祝いましょう。ビンゴゲームに豪華賞品を多数用意しますので、お楽しみに参加してください。

西条校下住民運動会

8月21日（日）に実施予定です。多数の参加をお願いします。

生誕 銅版画-静寂の線がつくる世界
100年 故郷でみる作家のあゆみ

南桂子展

高岡市美術館で「生誕100年～南桂子展」を見ってきました。南桂子さんは銅版画家としてフラン

スとアメリカで活躍し、日本へ逆輸入されたという偉大な作家ですが、高岡高等女学校（現在の高岡西高校）出身だそうで、何かご近所の親しみを感じます。



実はこの方の名前は初めて知ったのですが、作品を見るとどこかで何度となく見たような気がしました。それもその筈でユニセフのカードに採用されたりしていたそうです。

子供もいる主婦の立場にありながら銅版画家の浜口陽三を追ってパリに渡り、40年以上も日本へ帰らなかったという情熱的側面は、メルヘンチックな作品からは想像しにくいところです。

金屋町開町400年記念 シリーズ 金屋町と高岡鋳物の歴史

⑪ 鋳物師の名前は藤原朝臣

1153年（仁平3年）の吊り燈籠献上が発端となって河内鋳物師は天皇から仁安の御綸旨を頂き手厚い保護を受けることになりましたが、その

時に併せて藤原姓を頂きました。その時以来、鋳物師は写真にあるような仰々しい表札を掲げるようになったようです。

菊の御紋の下に、勅許御鋳物師 河内大縁藤原朝臣 高守久右衛門尉正明と書かれています。

写真の札は鋳物資料館に展示してありますが、昔は現在の鋳物資料館の場所に高守家の住宅と作業場があったそうで、その高守家のものです。

